

高中保健室の1年間

いよいよ卒業式までカウントダウンです。3年生のみなさんはどんな気持ちでいるでしょうか？新しい生活への期待と不安で複雑な心境かもしれません。振り返れば3年前・・・3年生が入学したときは、緊急事態宣言中でした。入学式は何とか挙行了したもの、すぐに臨時休業となり、学校が本格的にスタートしたのは6月のことでした。その後の学校生活もコロナに翻弄され、不安な中学校生活を強いられたのではないのでしょうか？そんな中でも新しい生活様式に適應しながら、パワフルに学校生活を送ったみなさんの雄姿を忘れません。新しい道を行く3年生に幸あれ！高中での日々を忘れないでね。



R4 保健室来室状況

*3/3現在



	1 学期 (人)	2 学期 (人)	3 学期 (人)	合計 (人)
1 年生	146	168	74	388
2 年生	173	220	140	533
3 年生	105	158	54	317
合計	424	546	268	1238

総来室者数 1238 人(昨年度 846 人)

保健室で休養した人は 317 人(昨年度 209 人)

早退した人は 141 人でした。(昨年度 106 人)



今年も保健室は、たくさんの人と「やりとり」をしました。人と人との「やりとり」の中で学ぶことはたくさんあります。特に思春期のみなさんは、他者との「やりとり」の中で自分を見つめ、自分らしい自分をみつけていくのです。保健室で「やりとり」したことが少しでもみなさんの力になっていたらうれしいです。

いつもマナー良く、保健室を使ってくれてありがとう。みなさんの成長を見守れることが幸せです。

命を学んだ3年生・・・

3月7日（火）3年生を対象として、健康教育講演会を行いました。講師は町立小鹿野中央病院院長の内田望先生。現役のお医者様から「命のはなし」を聞くことができ、命の重さや尊さを再確認する貴重な時間となりました。



内田先生はご自身が終末期医療に従事されたご経験をふまえ「命のはなし」をしてくださいました。その語り口は時にユーモラスで笑いを誘い、時に真剣に語りかけ・・・。生徒を飽きさせることがありませんでした。3年生の表情から、お話の素晴らしさが伝わるのではないのでしょうか？命の誕生を科学的に捉え、自分が生まれてきた神秘を再認識しました。

「自殺はしない」「ありがとうを言う」「死ねって言わない」3年生に語りかけた内容はシンプルですが、ぐっと心に迫りました。

「私たちは毎日あたりまえにご飯を食べていますが、実はとてもありがたいことです。なぜなら命をいただいているからです」

「いただきます」の意味を胸に刻みました。



3年生の感想から・・・

今回の内田先生のお話を通して自分の存在価値や生命の大切さを理解しました。そして私も「死ね」という言葉が大嫌いです。軽く口にする言葉ではないという話にも共感しました。今日という日を忘れずに、自分や他の人の命を大切に生きたいと思います。

3A 女子

話が面白くて、ひきこまれながら真剣に聞いていました。命と言われると大切だし重くて尊いものとしか考えていませんでした。しかし、今日のお話を聞いて奇跡的なもので、自分は多くの人に生かされているのかもしれないと思いました。そして、自分も誰かを助けられる人になりたいと思いました。

3A 女子

自分は将来、料理人を目指しています。今回の話の中で「いただきます」についての話を聞いて、医療とはまた違う形で「命」を扱う職業を目指す者として今回の話はとても心に刺さりました。

3A 男子